

神谷裕衆議院議員

「JR北海道・JR貨物の経営課題」について訴える！

JR総連推薦議員懇談会所属の衆議院議員・神谷裕氏(比例代表、北海道)が、JR北海道やJR貨物の経営課題について、北海道新聞の取材に答え、5月25日付けの朝刊に掲載されました。

神谷議員は、コロナ禍で厳しい経営が続く状況について、「気がかりなのは廃線論議が先鋭化すること。不採算路線はバス転換すればよいとの意見

があるが、運転手不足が深刻化し、容易ではない。貨物輸送の観点からも鉄道を維持する意義は大きい。政府は経営を支援する方向で検討すべきだ。」との見解を述べ、その財源についても、「鉄道は大量輸送でCO2削減にも貢献できる。その観点から国交省鉄道局だけでなく、環境省の予算も鉄道の活用に考えるべきだと提案する。日本は地震が多く、災害が起きて道路が使えなくなることもある。輸送の選択肢は多い方がいい」と訴えてくれました。

このことは、日頃からの意見交換はもとより、4月27日に開催した『JR貨物の存立基盤の確立にむけた国会議員への要請行動』などの意見を反映してくれていると言えます。

また、神谷議員は4月7日に立ち上がった、「立憲民主党・地域公共交通課題検討ワーキングチーム」の事務局次長にもなっており、5月23日には第1回会合が開かれ、地域公共交通の現状について国交省よりヒアリングがおこなわれています。

JR総連は引き続き関係単組との連携はもとより、JR総連推薦議員懇談会をはじめ、関係議員との連携を一層強化し、取り組みを強化していきます！

■JRの経営、支えるには

環境省予算も財源に



国会
これが聞きたい

神谷裕衆議院議員（比例道ブロック、立憲民主）

「長引く新型コロナウイルス禍でJR北海道の経営が厳しさを増しています。」

「気がかりなのは廃線論議が先鋭化することです。不採算路線はバス転換すればよいとの意見がありますが、運転手不足が深刻化し、容易ではない。道内市町村の中には、タクシー会社がない地域もあります。貨物輸送の観点からも鉄道を維持する意義は大きく、政府は経営を支える方向で検討すべきだと思います。」

「財源はどこから捻出しますか。」
「鉄道は大量輸送でCO2削減にも貢献できる。その観点から国交省鉄道局だけでなく、環境省の予算も使いながら鉄道の活用を考えるべきだと提案します。日本は地震が多く、災害が起きて道路が使えなくなることもあります。輸送の選択肢は多い方がいいのです。」

北海道新聞（2022年5月25日付・朝刊）